



新小山市民病院ニュースレター

Shin-oyama City Hospital News letter

Vol.27

1 副院長挨拶 ～もの忘れ外来と『運転の終活』について～

最近では高齢者の運転による交通事故のニュースが毎日のようにTVやネットなどで報道されています。免許更新時に75歳以上であれば認知機能検査を受検し、一定の点数に達していなければ認知症の有無について医療機関で診断書を作成し、公安委員会へ提出しなければなりません。当病院で行っているもの忘れ外来にも、新患としてこの診断書の作成を希望される方がおられますし、『認知症ではないが軽度認知機能障害の疑いがある』として半年ごとに診断書を作成するために受診される方も少なからずおられます。

この診断書作成について、通常行うような認知機能検査（改訂長谷川式簡易知能評価スケールやMMSEなど）のみでは、運転の可否に関する判断は難しい側面があることに注意する必要があります。認知機能検査で非常に点数が低いなど、明らかに認知症を発症していると判断出来る場合は別ですが、例えば車のキーの置き忘れがあっても、車の運転自体は全く問題無い人もいますし、逆にこれらの検査では比較的高得点であっても、運転の状況や家庭での様子を家族に伺うと、『この人に運転させては駄目だろう』という人もいるなど、個人により運転の適性には大きな違いがあるとも言えるでしょう。

日常生活の様子や頭部CT所見なども参考とし、総合的にみて認知機能低下のために運転を続けることが適切ではないと判断した場合には、診断書作成の前にまずは『免許証の自主返納』をお勧めするようにしています。ただ、初対面の医師に、『あなたは運転すべきではありません、免許は返納しましょう』といきなり言われても『何でそんなことを言われたいといけないんだ！？』と、納得されない方々も当然おられます。独居の方などでは周囲からの助言が難しい人もいますが、同居の家族がいる場合など、ある程度の年齢になれば、運転をいつまで続けるのか等について、日頃から家族間で十分話し合っておくことも重要だろうと感じています。診断書作成は当科もの忘れ外来の重要な業務の一つであり、出来る限りお手伝いして参りますが、『この人はそろそろ免許を返上した方が良いのでは？』とご家族が感じる事があれば、かかりつけ医の先生方にもその旨を伝え、『運転の終活』についても普段から話し合いの機会を持つようにしてもらえればと思う次第です。

令和元年12月

新小山市民病院 副院長・神経内科部長

川上 忠孝

2 TOPICS

ホームページに診療情報提供書(定期検査用)を追加しました

定期的に検査等で患者さんをご紹介いただく際に、ご利用いただける診療情報提供書を新たに追加いたしました。ホームページよりダウンロードし、ご利用ください。

《ダウンロード方法》

新小山市民病院ホームページ → 各種書類ダウンロード

→ 医療機関向け各種書類 → ②診療情報提供書（定期検査用）



目次:

副院長挨拶	1
新任医師紹介	2
医療機器購入	3
お知らせ	4

ハイライト

- 診療情報提供書について
- 乳腺外科の先生が入職されました
- 患者支援センターからは、旧病院から現在までの地域別紹介件数、広域から当院への紹介件数、また今年度の緊急患者紹介件数をご報告させていただきます。

分からないこと、質問等ございましたら、いつでも、医療連携室までご連絡ください。



ポットラック カンファレンス 地域完結型 医療・連携の会

今年度の開催日をお知らせいたします。
詳細は、演題が決まりましたらご連絡させていただきます。

たくさんのご参加をお待ちしております。

ポットラック カンファレンス

偶数月、第1火曜日
19:45～ さくらホール①②

お菓子、飲み物を用意してお待ちしております。

12/3、2/4



地域完結型 医療・連携の会

奇数月、第3木曜日
19:15～ さくらホール

軽食をご用意しております。

1/16、3/19



新任ドクターの紹介

8月,9月,10月採用の新しい医師を紹介します。スペースの関係上、今回は女性医師 2名のご挨拶とさせていただきます。紹介・逆紹介等いろいろお世話になるかと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



外科
副部長
田原 真紀子

令和元年10月より新小山市市民病院外科に赴任いたしました田原 真紀子です。平成15年に弘前大学を卒業後、自治医科大学 消化器・一般外科に入局しました。平成20年に旧小山市市民病院での勤務歴がありますが、新病院では初勤務となります。大学病院では大腸領域を専門とし、腹腔鏡下大腸切除術に数多く携わってきました。大腸癌の罹患率は増加傾向にありますが治療成績は向上してきております。高齢化に伴い併存症を有する症例も多々ありますが、日々安全な手術を心掛けております。大腸領域に限らず外科全般で何かありましたらいつでもご相談いただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



外科
副部長
宮崎 千絵子

令和元年10月より新小山市市民病院外科（乳腺）に赴任いたしました宮崎 千絵子です。福島県立医科大学卒業後、自治医科大学附属病院で研鑽を積み、外科専門医・乳腺専門医を取得しました。乳癌の新規患者さんは増える一方でまた、乳癌は経過の長い疾患です。早期に診断し、手術、抗がん剤治療など早期治療介入を目指します。また、近隣病院の先生方と協力し、大学病院と連携をとりながら患者さんに寄り添う医療を心がけたいと考えております。乳腺疾患でお困りの症例がありましたら是非ご紹介お願い致します。今後とも宜しくお願い申し上げます。



外科
第一部長
三木 厚



麻酔科
副部長
宮城 健



呼吸器内科
医員
新井 郷史



神経内科
医員
渡邊 輝

人工関節置換術にナビゲーションシステムを導入しました

この度整形外科において、人工関節置換術をより安全に、より正確な手術を実現するために「ナビゲーションシステム」を導入しました。

導入した「ナビゲーションシステム」とは、先進医療のひとつで、コンピューター支援手術システムです。このシステムでは、赤外線を使用して、治療する部位と手術器具の位置関係を正確に計測し、リアルタイムでコンピューター画面上に表示することで、医師の手術をサポートするシステムです。これにより、高い精度の手術を可能としております。

今後とも医療技術の向上を図り、患者様の立場に立った医療に努めてまいります。
該当する患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介いただきますようお願いいたします。



薬剤部門からのお知らせ

～ タゾピペ配合静注用(TAZ/PIPC タゾバクタム/ピペラシリン)供給に関して ～

タゾピペ配合静注用は、抗緑膿菌作用のあるペニシリンであり、ペニシリン系抗菌薬でありながら MSSA、グラム陰性桿菌の β -lactamase 産生菌、嫌気性菌の B.fragilis group などにも抗菌活性がある広域抗菌薬です。

現在、タゾピペ配合静注用は、2019 年 4 月に発生した QiluTianhe 社（チルテンワ社（中国））の敷地内で発生した事故に伴い、タゾピペの原薬及び中間体の供給が停止しており、製剤の製造ができない状況が続いております。また、具体的な製造再開時期も判明しておりません。「ニプロ」、「ファイザー」、「第一三共」など。

当院では、残り少ない在庫を有効に使用していただくため、今回、タゾピペ配合静注用を【使用許可制】と致しました。

また、使用患者については、AST

（Antimicrobial Stewardship Team）にて随時介入し、代替薬の提案をする等、適正使用に努めております。



患者支援センター

(受付時間 平日 8:30~17:15)

医療連携室：

0285-36-0252

(緊急の患者紹介・転入相談・
その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：

0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・神経
内科・循環器内科の受診予約・
胃カメラ・心エコー・腹部エコー
などの検査予約)

医療相談室：

0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関するこ
と・MSWに連絡・その他、外来
患者の各種相談に関すること)

FAX：

0285-36-0352

メール：

renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

※メールでも受付しております。

地方独立行政法人 新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

ホームページ

<http://hospital-shinoyama.jp/>

看護師採用サイト

<http://hospital-shinoyama.jp/nurse/>

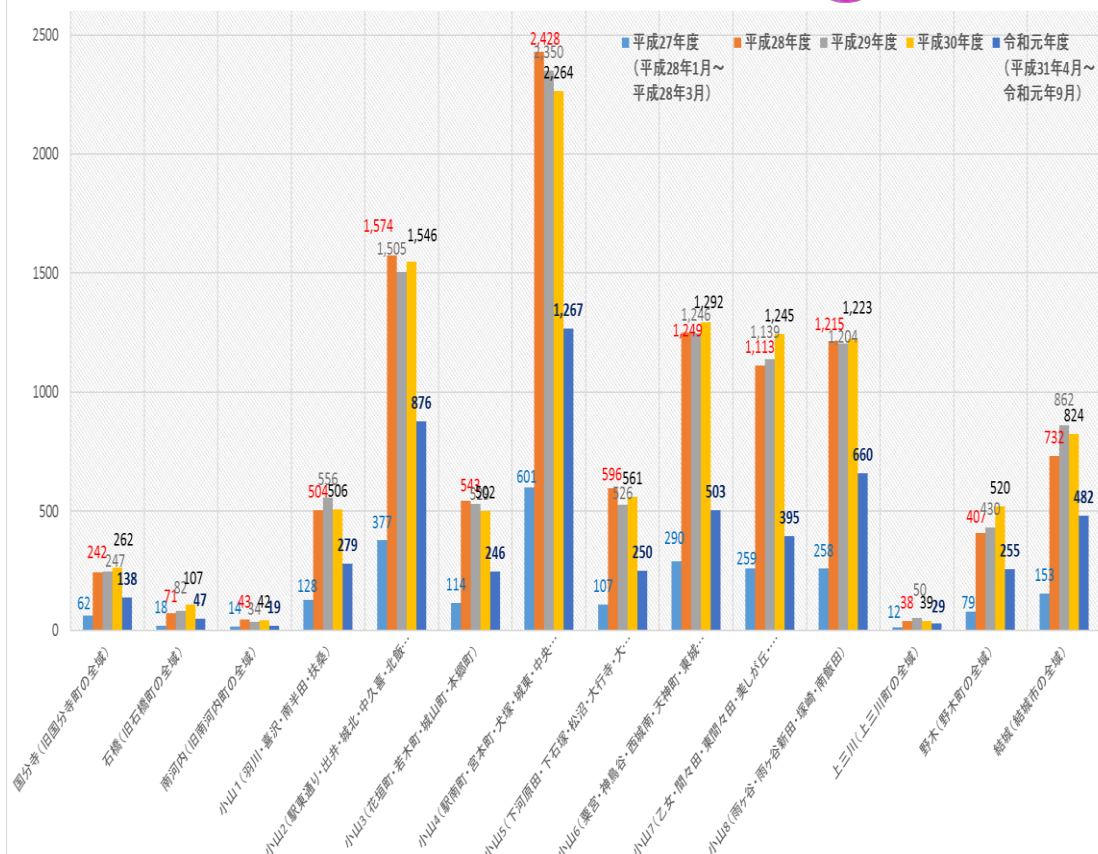
Facebook

<https://www.facebook.com/shin.oyama.city.hospital>

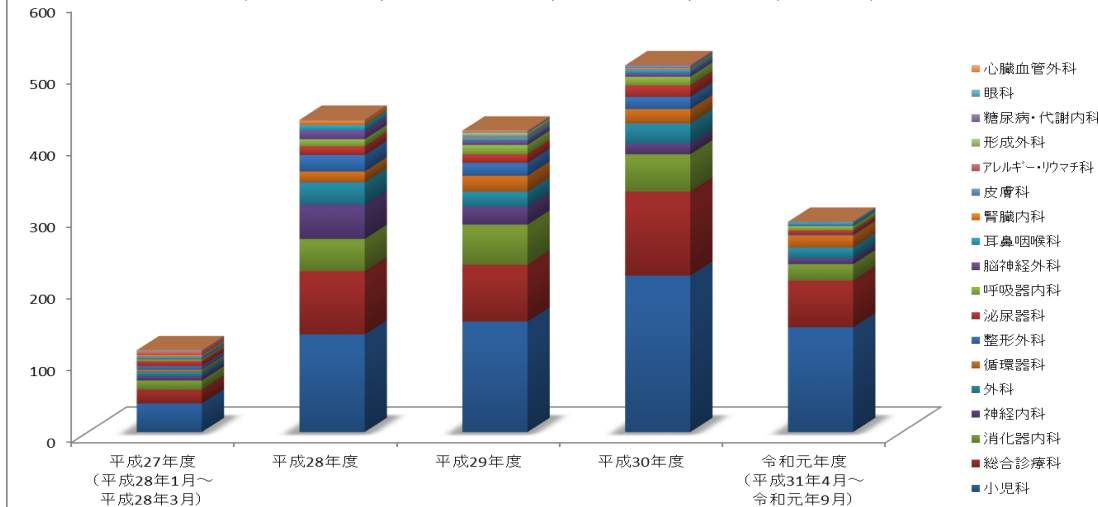


患者支援センターからのお知らせ

いつも当院運営にご協力頂きありがとうございます。



小山広域保健衛生組合 夜間休日急患診療所からの紹介(H28.1月~R1.9月)



緊急患者紹介と対応不能の推移

